

報告

第一回「宇宙(天文)を学べる大学」合同

説明会」関東版の開催とその裏話

野澤恵(茨城大学理学部)

1. はじめに

第一回「宇宙(天文)を学べる大学」合同説明会」関東版を 2010 年 11 月 21 日に、日本科学未来館で開催した。そして一週間後の 28 日に中国四国地区で開かれた。後者の報告は、この「天文教育」の 2011 年 1 月号にされた[1]。また両者の報告は 2011 年 2 月号の天文月報[2]で行った。今回は関東版の報告を行なう。ただし同じものでは面白くないため、著者も単名とし、概要に加え筆者の裏話的な側面を述べていきたい。

2. 概要

2010 年 11 月 21 日にサイエンスアゴラ[3]の一企画として開催した。サイエンスアゴラは、独立行政法人科学技術振興機構(JST)が主催する科学普及イベントで、このときが五回目であり、11 月 19 日(金)から 21 日(日)の三日間の開催であった。合同説明会は最終日の日曜に行い、時間は 10 時半から 16 時までとした。以下がそのスケジュールである。

10:00 受付開始

第 1 部 宇宙(天文)を学べる研究室と先生に質問

10:30 挨拶(野澤)

10:40 skype meeting で遠くの研究所の先生と話そう

11:40 ランチ&ポスターセッション 1

第 2 部 宇宙(天文)を学べる研究室と先生の紹介

13:00 各大学の紹介パート 1 (10 大学各 6 分程度)

会津大学コンピュータ理工学部、青山学院大学理工学部、茨城大学理学部、大阪教育大学教育学部、桜美林大学リベラルアーツ学群、国際基督教大学、埼玉大学教育学部、理学部、総研大(国立天文台)、千葉大学理学

部、筑波大学理工学群物理学類

14:00 休憩&ポスターセッション 2

14:30 各大学の紹介パート 2 (9 大学各 6 分程度)

東邦大学理学部、東京工業大学物理学科、東京学芸大学教育学部、東京大学理学系研究科、日本教育大学院大学学校教育研究科、法政大学理工学部創生科学法科、明星大学理工学部、立教大学理学部、早稲田大学教育学部

15:30 休憩&ポスターセッション 3

16:00 終了

第1回「宇宙(天文)を学べる大学」合同説明会」関東版

日時: 2010年11月21日(日) 午前10時30分
場所: 日本科学未来館 サイエンスライブラリ(3階)
<http://www.miraikan.jst.go.jp/guide/route/>

第 1 部 宇宙(天文)を学べる研究室と先生に質問
10:30 skype meeting で遠くの研究所の先生と話そう

11:40 ランチ&ポスターセッション 1
(昼食をご持参ください)

第 2 部 宇宙(天文)を学べる研究室と先生の紹介

13:00 各大学の紹介 パート 1
14:00 休憩&ポスターセッション 2
14:30 各大学の紹介 パート 2
15:30 休憩&ポスターセッション 3
16:00 終了予定

参加予定大学(あいうえお順)
会津大学 コンピュータ理工学部
青山学院大学 理工学部
茨城大学 理学部
大阪教育大学 教育学部
桜美林大学 リベラルアーツ学群
国際基督教大学 理工学部
埼玉大学 教育学部、理学部
総研大(国立天文台) 天文学部
千葉大学 理学部
筑波大学 理工学群物理学類
東京大学 理学部
東京工業大学 物理学科、地球惑星科学科
東京学芸大学 教育学部
日本教育大学院大学 学校教育研究科
法政大学 理工学部創生科学法科
明星大学 理工学部
立教大学 理学部
早稲田大学 教育学部

お問い合わせ先
野澤恵 理学部
info@wasei.ac.jp 029-228-6376

主催 『宇宙(天文)を学べる大学』合同説明会」関東版実行委員会
後援 天文教育普及研究会関東支部

図 1 関東版説明会のポスター、チラシ

2.1 skype meeting

この企画は、今回の説明会で初めて行なっ

たものである。ネット経由であるが、世界中の研究者と話ができることをアピールした。

台湾中央研究院の平松正顕氏、高知工大の山本真行氏、ハワイの臼田・佐藤氏、京大飛騨天文台の一本潔氏の4名の方に各15分程度の時間をお願いした。内容としては、研究や施設の紹介、海外での研究環境などを話してもらい、聴衆の高校生との質疑応答もあった。

2.2 大学紹介パート 1, 2

参加大学が20校程度となったため、紹介をパート1, 2に分けた。そのため各大学の持ち時間が6分程度と短めであった。席を20程度しか用意できなかったために、立見が出てしまった。質疑応答に関しては、ポスターセッションで行なうようにお願いした。



図2 各大学の紹介前の講演会場の風景

2.3 ポスターセッション 1, 2, 3

ポスター会場は広いが、通常の四角い部屋などとは異なる特殊な形状であったので、使い方の工夫が必要であった。そこで、ポスターの大きさをA1とし、直接壁に貼るようにした。参加大学以外の大学のポスターも募ったことで、掲示枚数が多くなり、かなり窮屈な空間での説明となってしまった。そして最後のセッションでは、ほとんど参加者が帰ってしまい、残ったのは関係者ばかりであった。

2.4 参加者数

発表には約20大学、ポスターだけならば40を越える参加があった。また聴き手として参加した人数は、記帳では50名程度(うち高校生は30名程度)、アンケートの回収が20枚程度であった。アンケートで、どこから情報を得たかの問には、高校経由が8名、インターネットが4名、新聞が3名、残りがその他であった。

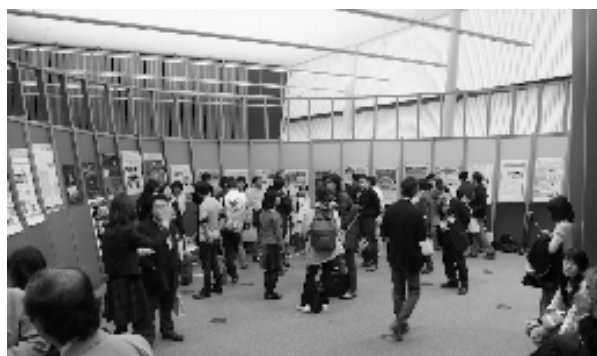


図3 ポスター会場の風景

2.5 反省点など

広報については、うまく行なえなかった。教育委員会へのFAXでの連絡により公立高校への周知、マスコミによる記事掲載もあったが、それだけでは足りなかった。特に関東圏は私立高校が多く、直接各高校への広報が必要であるが、現在の方法では不十分である。

一般客も来るサイエンスアゴラはアピール度が高く、集客には効果的に働いた。しかし、説明会の内容として一般の人が興味を持つかは疑問である。実際に少しだけ覗きすぐに出ていく人は多かった。またイベントの参加という形のため、必ずしも希望の場所が取れなかったり、使用に制限がつくなどの問題があった。特に会場が吹き抜けだったため、隣のブースの漏れ音や館内放送などが筒抜けとなり、音に関して支障が出てしまった。

事務局体制は考える必要がある。どうしても一人に集中しがちで、滞ることもあり、こ

の点はネットが発達したといっても、補うことができない。良い方法がないだろうか。

今まで関東で行われなかったのには理由があるのだろうが、よくわからない。しかし今回開催したことで、各大学が高校生に大学で行っている教育や研究をアピールしたい気持ちが高まっているのではないかと感じている。日本天文学会の年会のジュニアセッションが各学会に影響を与えたように、学会で高校生に説明会を行うことが当たり前になってくるのではないだろうか。

3. では裏話的なものを

就職をして10数年経つが、諸事情のため、自分を発揮することが最初にはできなかった。5年ほど前にやっと目途がつき、展望が開けるようになった。同時に自分の研究室に配属される学生が多くなり、研究に関わらず彼らの希望に少しでも応じようとし始め、それまで対外的なことに興味の無い消極的な姿勢が、少しずつと積極的な方向に変化した。

学生と関わるようになると、よりたくさんの学生と話したくなり、いろいろな場に出るようになった。そこで聞いたことの一つとして「天文を勉強しに、この大学に来ました」を複数名の新入生から得た。その後、自分の院生に聞くと、自分も「宇宙を学べる大学」[4]を見て入学しましたと言われた。過去の自分には、同じ言葉なのに聞こえていなかったらしい。これは自分に聞く姿勢が無いと耳に入っていないことは、研究でも同じである。

では「天文を勉強しに」から「天文の研究を行い」、そして「天文を生涯の友」とするための経路を学生に提示する必要があると考え始めた。その一つとして、今回企画したskype meetingで、どのような経路を辿って今の自分が居るのかを提示してもらおうと考えた。今回は成功とは言えないが、これから

天文を選択する学生に取っては重要だと思い、できるだけ取り込んでいこうと考えている。

振り返ってみると、高校生の自分であれば、現在の姿を想像することはできない。誕生からの出会いの積み重ねが、今の自分を作り上げたと考える運命論者である。そこで現在できることは、天文を目指す若者に研究者との出会いの場を提供することである。

天文教育には自分が教育大学出身でもあるため、興味が十分にあった。今回の説明会に限らず、天文普及の観点から何かできることはないかと日頃考えており、その役割のために精一杯の努力ができればと思う。

4. おわりに

この関東版を開くにあたり、関係大学、機関の皆様、参加者の皆様、そして無数の方の力を借り開催できたことを感謝します。そして、至らない点が多々あったことをお詫びします。特に高梨直紘氏、松村雅文氏、福江純氏にはお世話になりました。そして最後に手伝いをしてくださった学生の皆さんには、紙面を通じ深くお礼申し上げます。

文 献

- [1] 松村雅文他, 2011, 天文教育, 23(1), 21
- [2] 野澤恵他, 2011, 天文月報, 104, 94
- [3] <http://www.scienceagora.org>
- [4] <http://phyas.aichi-edu.ac.jp/~sawa/2009.html>



野澤恵(左は娘が描いた顔)